

予 算 要 求 資 料

令和3年度3月補正予算

支出科目 款：商工費 項：観光費 目：観光開発費

事業名 新 サステイナブル・ツーリズム推進事業費補助金

(R4分)

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 観光国際局 観光企画課 サステイナブル・ツーリズム推進係

電話番号：058-272-1111 (内 3149) E-mail：c11334@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 25,000千円 (現計予算額： 0千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補正 要求額	25,000	0	0	0	0	0	0	0	25,000
決定額	25,000	25,000	0	0	0	0	0	0	0

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

コロナ禍において世界中でSDGsへの関心が一層高まりを見せる中、本県がアフターコロナにおける「選ばれる旅先」となるためには、サステイナブル・ツーリズム (持続可能な観光) の推進が不可欠である。

そこで、地域関係者が一体となり、地域資源の「保全と活用」両輪での持続可能な観光地づくりに資する取組を重点的に支援し、誘客促進及び観光消費額の拡大につなげる。

(2) 事業内容

■ サステイナブル・ツーリズム推進事業 (10,000千円)

地域の利害関係者が一体となった「持続可能な観光地づくり」に資する取組への助成

■ 「新・岐阜の宝もの」ブラッシュアップ支援事業 (7,500千円)

「新・岐阜の宝もの」をめざし、サステイナブル・ツーリズムの観点で磨き上げを行う取組への助成

■ 木曽川中流域観光振興推進事業 (7,500千円)

木曽川中流域の新たな観光資源の発掘、ブラッシュアップ及び流域市町の連携により周遊性、滞在時間、消費額を増加させる取組への助成

【補助対象者】

- ① 市町村
- ② 観光協会等（観光協会、観光振興に取り組んでいる団体）
- ③ 日本版DMO等
※観光庁の「日本版DMO」登録法人、「日本版DMO候補法人」登録法人、「日本版DMO候補法人」登録申請予定の法人
- ④ 次に掲げる者のいずれかで構成する観光関係協議会等
 - (1) 複数の市町村
 - (2) 市町村及び観光関係事業者
 - (3) 複数の観光関係事業者
(ただし、市町村から助成又はそれと同等の支援を受けていること。)
 - (4) その他知事が補助事業者として特に認める者

(3) 県負担・補助率の考え方

■ サステイナブル・ツーリズム推進事業

補助率：2/3、上限：500万円

■ 「新・岐阜の宝もの」ブラッシュアップ支援事業

補助率：2/3、上限：500万円

■ 木曽川中流域観光振興推進事業

補助率：2/3、上限：500万円

(4) 類似事業の有無 無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	25,000	・サステイナブル・ツーリズム推進事業 ・「新・岐阜の宝もの」ブラッシュアップ支援事業 ・木曽川中流域観光振興推進事業
合計	25,000	

決定額の考え方

財源については、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を充当します

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

3 地域にあるれる魅力と活力づくり

(2) 次世代を見据えた産業の振興

④観光産業の基幹産業化

(2) 国・他県の状況

岐阜県独自の事業である

(3) 後年度の財政負担

新型コロナウイルスの影響による緊急支援事業のため、単年度事業である

(4) 事業主体及びその妥当性

複数の事業者による地域一体的な取組を支援するものであり、妥当

県単独補助金事業評価調書

■ 新規要求事業

□ 継続要求事業

補助事業名	サステイナブル・ツーリズム推進事業補助金
補助事業者（団体）	市町村、観光協会、観光関係協議会、観光事業者
補助事業の概要	地域が一体となった持続可能な観光地域づくりに寄与する取組を支援
補助率・補助単価等	定額・定率・その他（例：人件費相当額） 補助率 2/3、上限 5,000 千円 （理由） 持続可能な観光地域づくりに向けた取組みを促進するため、「清流の国ぎふ」観光回廊づくり推進事業費補助金の「観光資源魅力向上推進事業」と同等の上限額を設定
補助効果	観光誘客及び観光消費額の増加
終期の設定	終期 令和 4 年度

（事業目標）

・終期までに何をどのような状態にしたいのか

地域関係者が一体となり、地域資源の「保全と活用」両輪での活動による「持続可能な観光地づくり」を進めることで、周遊性・滞在時間及び観光消費額の拡大を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	R2 年度	R3 年度	R4 年度	終期目標	達成率
	(R)	実績	目標	目標	(R)	
観光消費の経済波及効果						%
観光入込客数（実数）						%
外国人延べ宿泊数						%

	H30 年度	R 元年度	R2 年度
補助金交付実績	千円	千円	千円

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	・取組内容と成果を記載してください。 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

(事業の評価)

・事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価)	
・事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり (単年度目標 100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり (単年度目標 100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない (単年度目標 50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない (単年度目標 50%未満)	
(評価)	
・事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価)	

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 コロナ禍において世界中でSDGsへの関心が一層高まりを見せる中、本県がアフターコロナにおける「選ばれる旅先」となるためには、サステイナブル・ツーリズムの推進が不可欠である。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 新型コロナウイルスの影響による緊急支援事業のため、単年度の事業とする。
